

磯焼け対策ガイドラインの概要

【ガイドラインのコンセプト】

海域の状況(症状)の情報をもとに、何が磯焼けの原因なのかを明らかにする方法(検査方法)と、どのような磯焼け対策に取り組めばよいか(治療方法)について、フローに従い容易に特定できるようなガイドライン

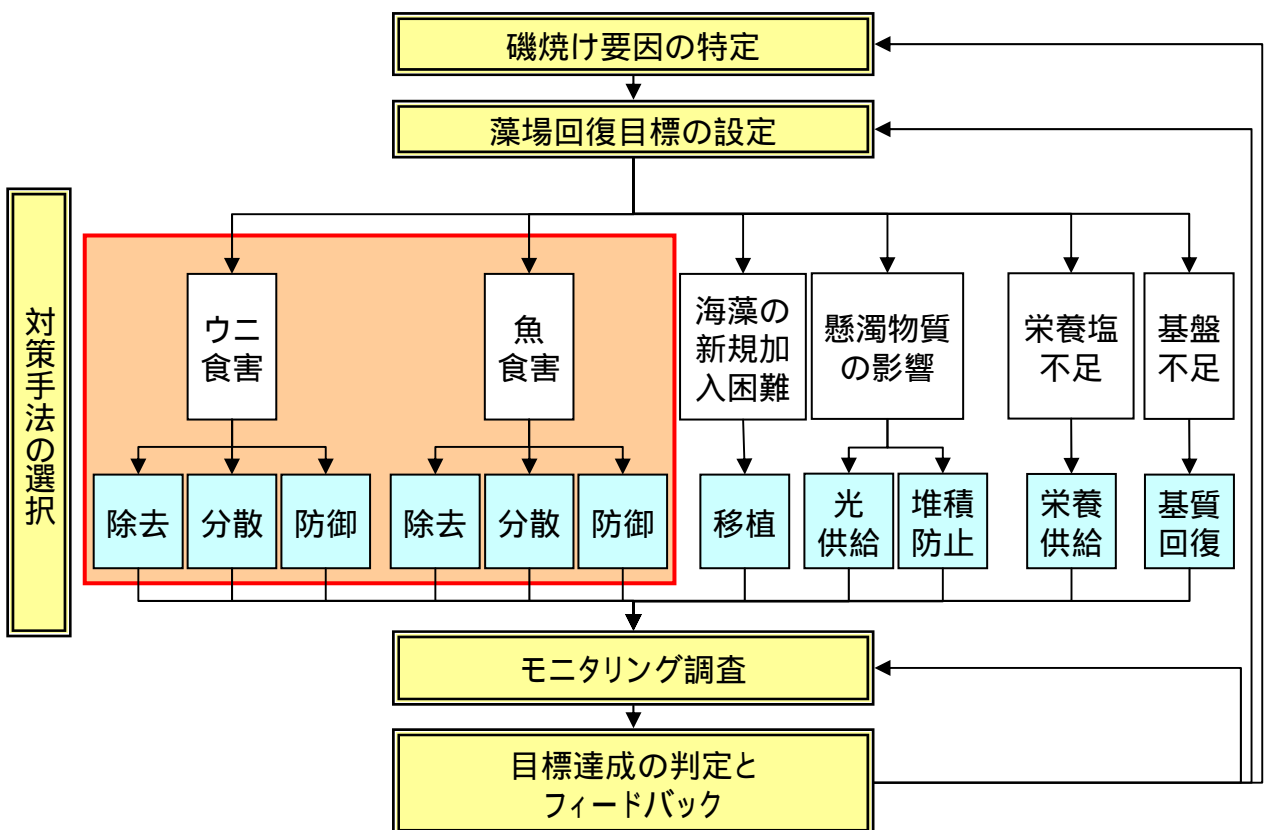
【ガイドラインの特徴】

磯焼けの原因のうち、全国的に問題となっており、かつ漁業者等による改善の取組について比較の実用化の目処がたっている、ウニや植食性魚類による食害対策をメインとして解説

東京海洋大学の藤田大介助教授を委員長とする検討委員会からのアドバイスを
得て、科学的な視点から記述

17都道府県(北海道、青森県、秋田県、岩手県、宮城県、東京都、静岡県、愛知県、新潟県、京都府、福井県、和歌山県、高知県、佐賀県、長崎県、大分県、鹿児島県)の協力を得て実海域による調査・実証試験を行い、その成果を反映することで、実用的な対策事例を紹介

磯焼け対策のフロー図



『何が磯焼けの原因なのかを明らかにする方法』を解説

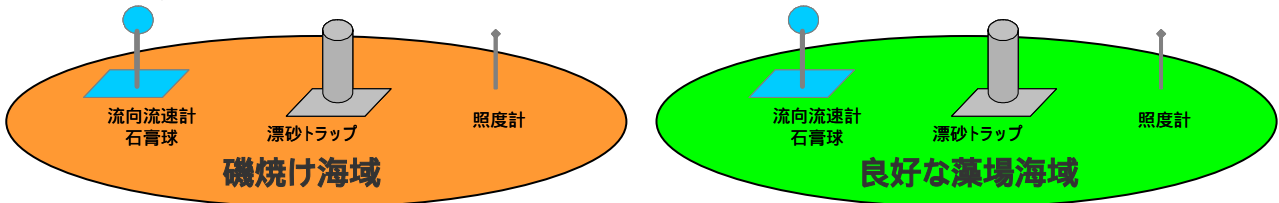
< 植食動物の食害の有無を把握するための調査 >

磯焼け海域に海藻を移植し、食害にあうかどうか、ウニ又は魚のいずれの食害であるかを確認

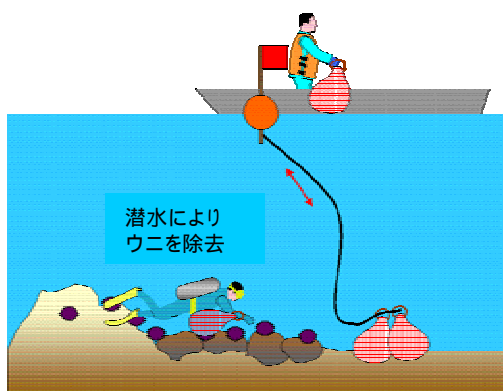


< 海藻の生育環境の違いを把握する調査 >

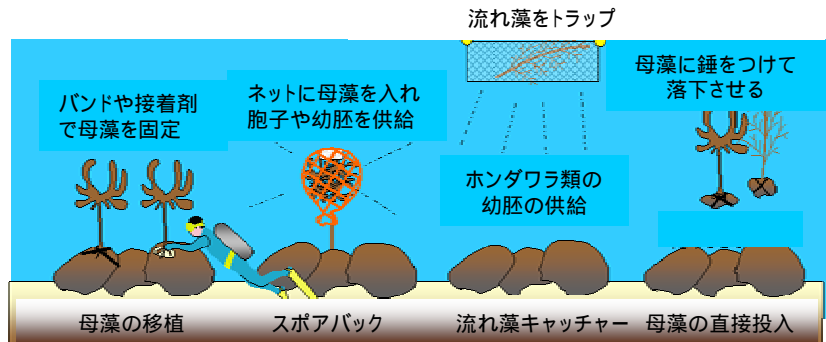
磯焼け海域と近隣の良好な藻場海域で「流向流速」「漂砂」「照度」等の比較調査を行い、磯焼けに影響を及ぼしていると思われる環境項目を確認



原因に対し、『どのような磯焼け対策に取り組めばよいか』を解説



ウニ食害に対しては、潜水作業により完全除去を目指すことが有効
一般市民の協力を得て大規模に行った事例を紹介



母藻場が少ない場合、移植や種供給が有効
食害も原因の場合は、食害対策を合わせて行う必要があることに注意



魚食害に対しては、大規模な対策は難しいものの、網等で藻場を防御することが有効
食害魚の魚食普及により、漁獲を促進する方法を提案

< 上記以外のそれぞれの対策についても、現在まで判明している知見を紹介 >